



兒こ雷らい也や豪傑かうけつ譚たん  
 上の卷うわのまき  
 十篇じゅうへん



^13  
 3878  
 23

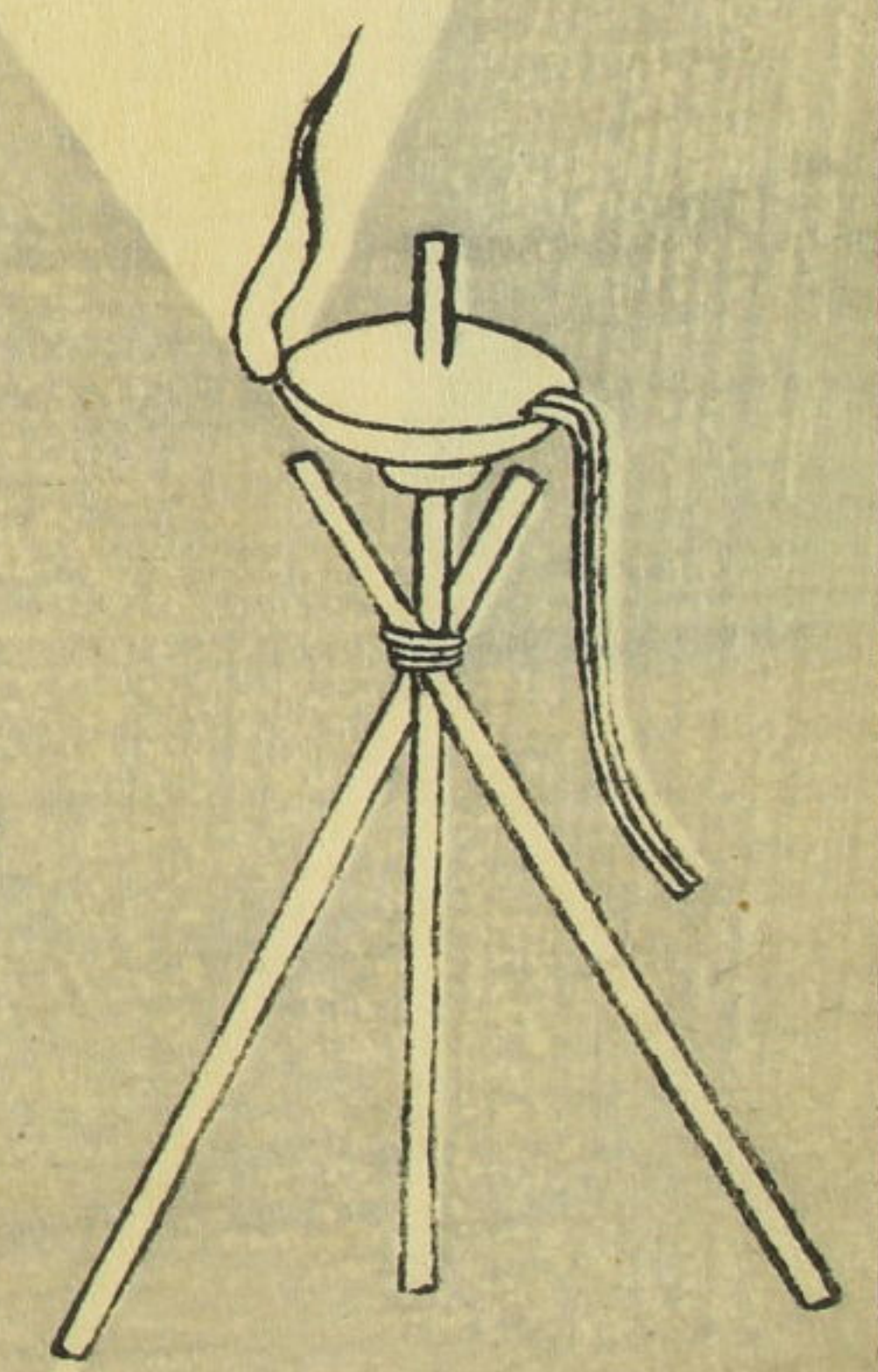


門へ13  
 號3878  
 卷223

兒雷也  
 豪傑譚

上卷

一 柳の亭作  
 壽高画



泉市棒

過歲天保己亥の春美圖垣との戯作者の大夫職  
 兒雷也の初編或著述あひく手許り流行直二編は裏  
 約東三編四編と巻を追頗江湖ふ全盛なり第六編より殊  
 作意の勝る松の位一筆大人がこれと終繼通路敏未る十二編看  
 自佳境に至りては被面個の鳳妓達つて苦海の季明とるり販  
 元の御見立ありて拙子も嗣編の註文がかきぬ嗚呼依然たる仲の  
 街勤の代小壁居眠振袖雛妓其編述ハ拙くとも書肆と  
 年来御馴染の老舗ある甘泉堂猶不相衰高評を其ふ  
 と對妓めりて初見禮の序を斯のふ

維時嘉永第二拾  
 巳酉歲正月稿成  
 同三孫庚代新書發兌

柳下亭種員識



兒雷也十二



見雷  
尾形弘行



米山寺の兒  
佐渡國真野山の  
賊首大蛇丸

勇婦  
見雷の妻



此画様ハ  
第十三編  
目の趣向  
ナリ

お強が妹  
小園女

悪魔婆  
お強

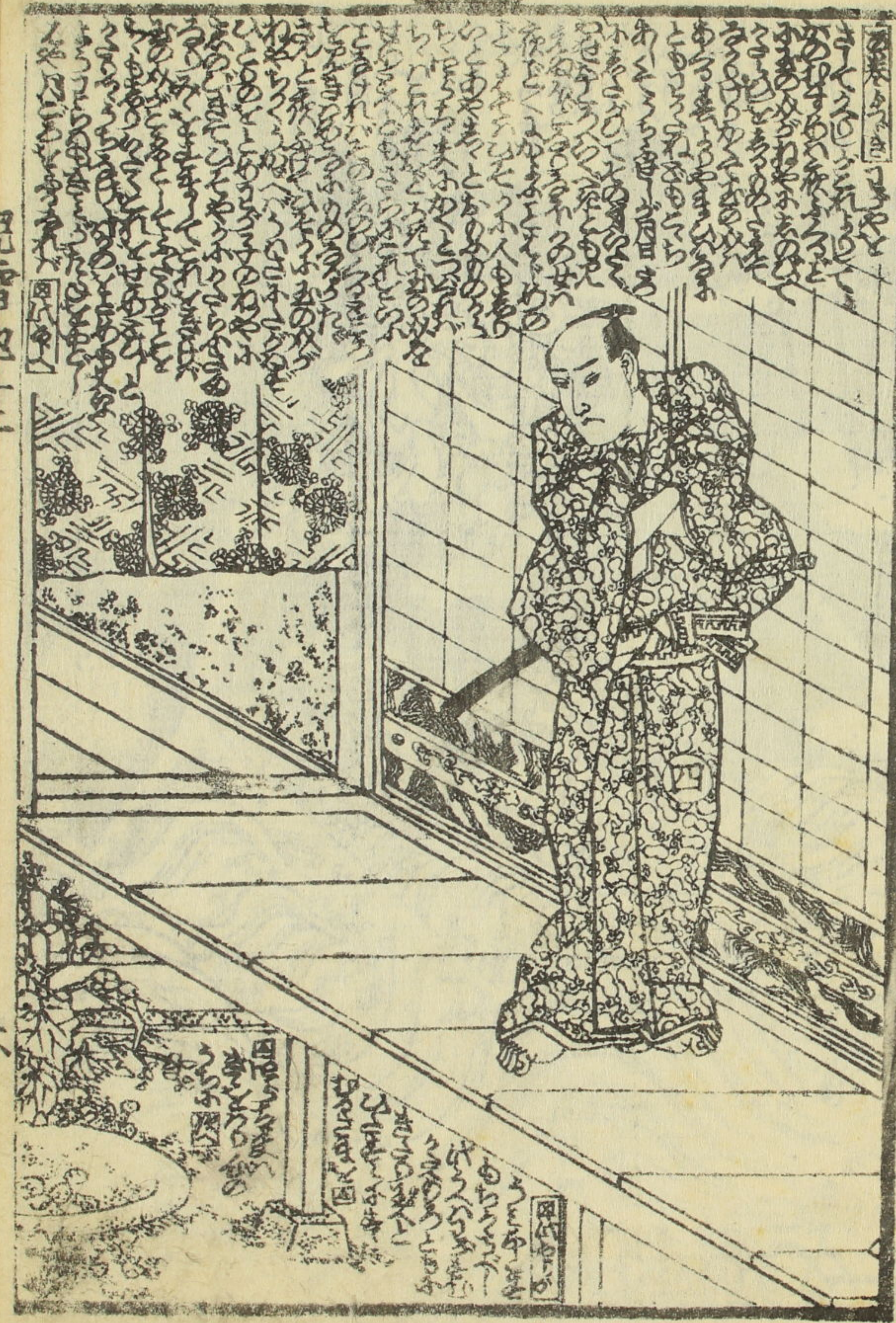
悪魔婆塞の  
修行者兼雲  
実ハ見雷也

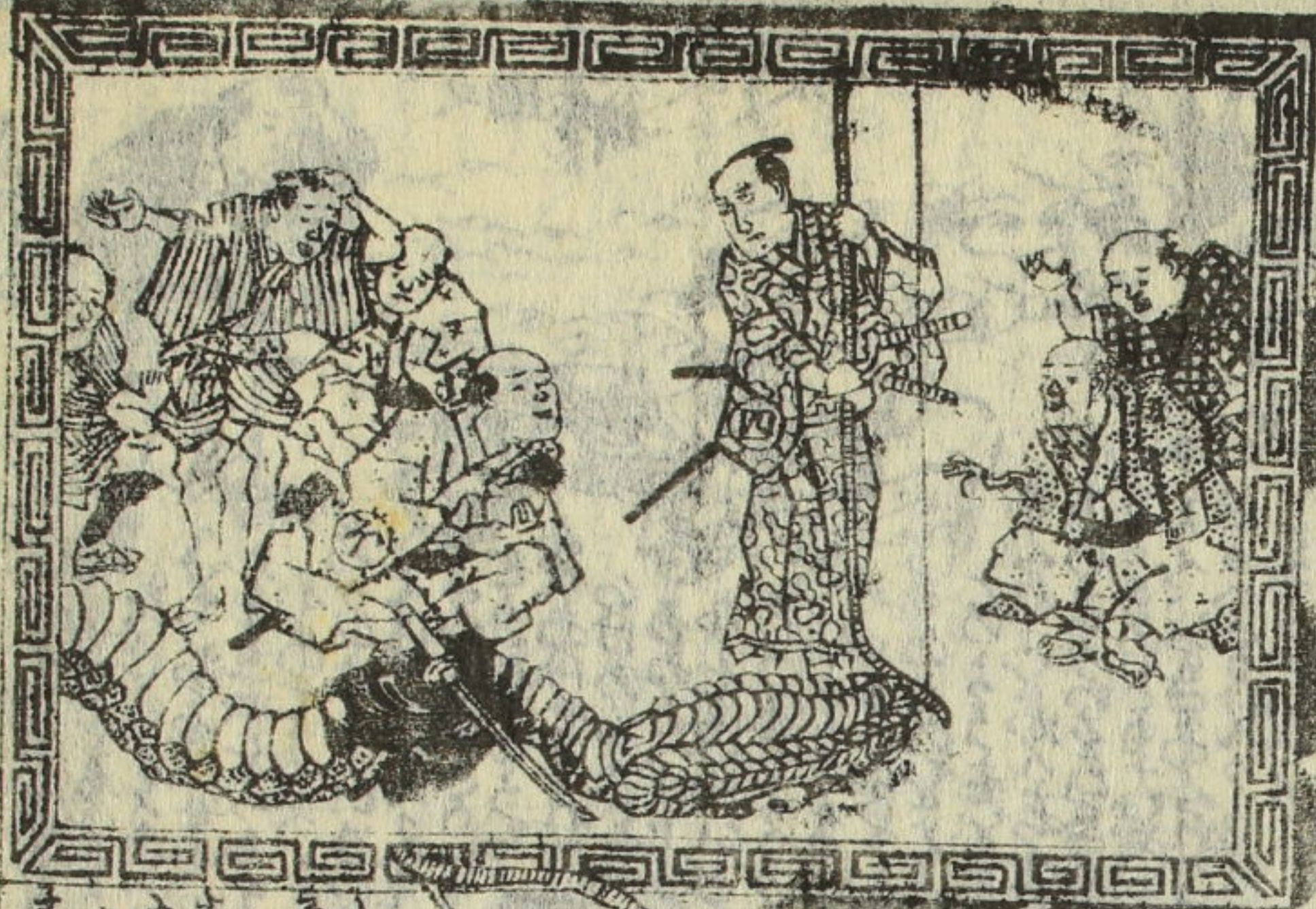


目録

目録







とくんとえ  
とくけい  
とくま  
れりしと



この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...

この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...



この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...  
この山は...

この山は...

この山は...



Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely serving as a preface or introductory notes for the scene below.



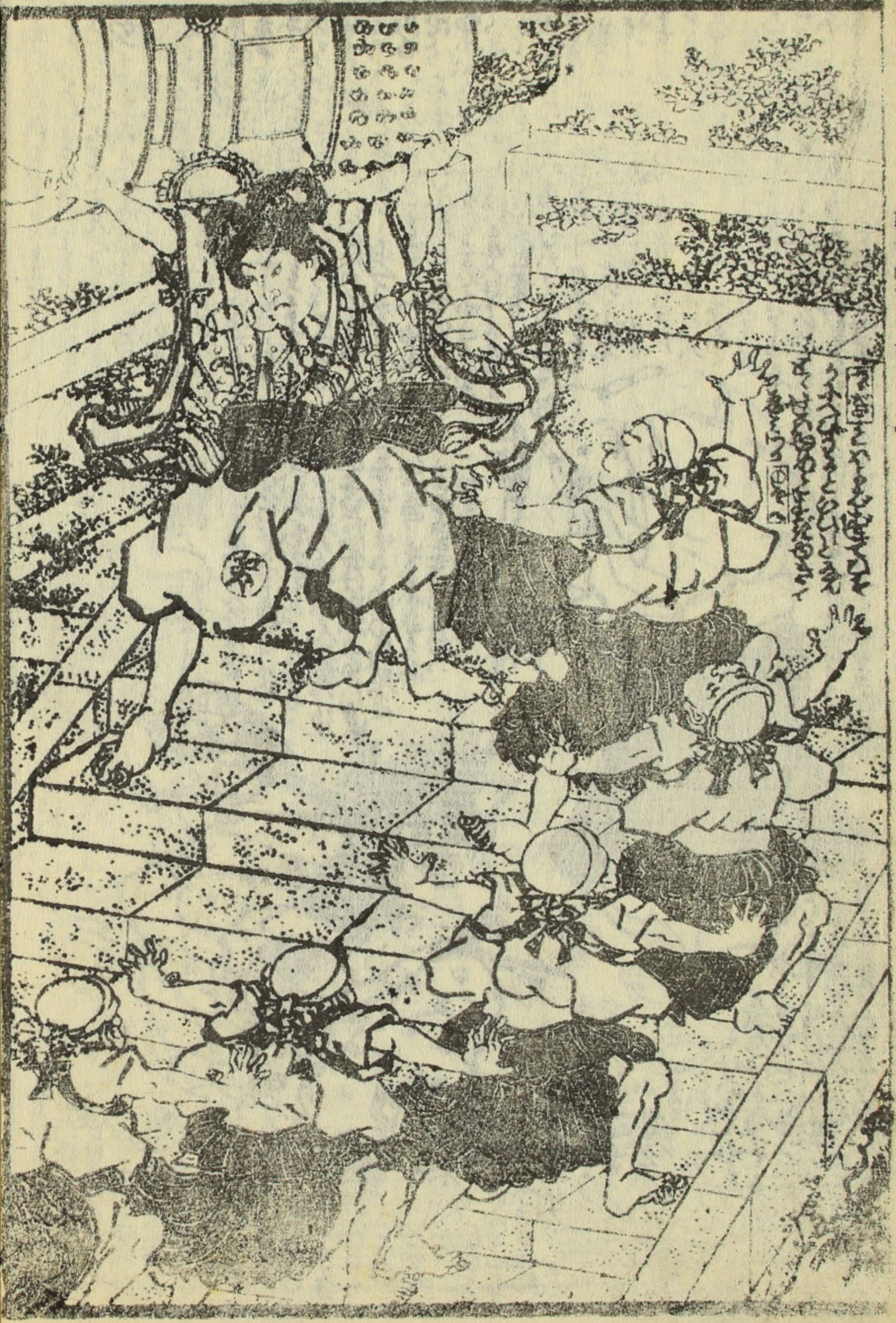
Vertical text on the far left margin of the left page.

五之助  
池青柳  
入水

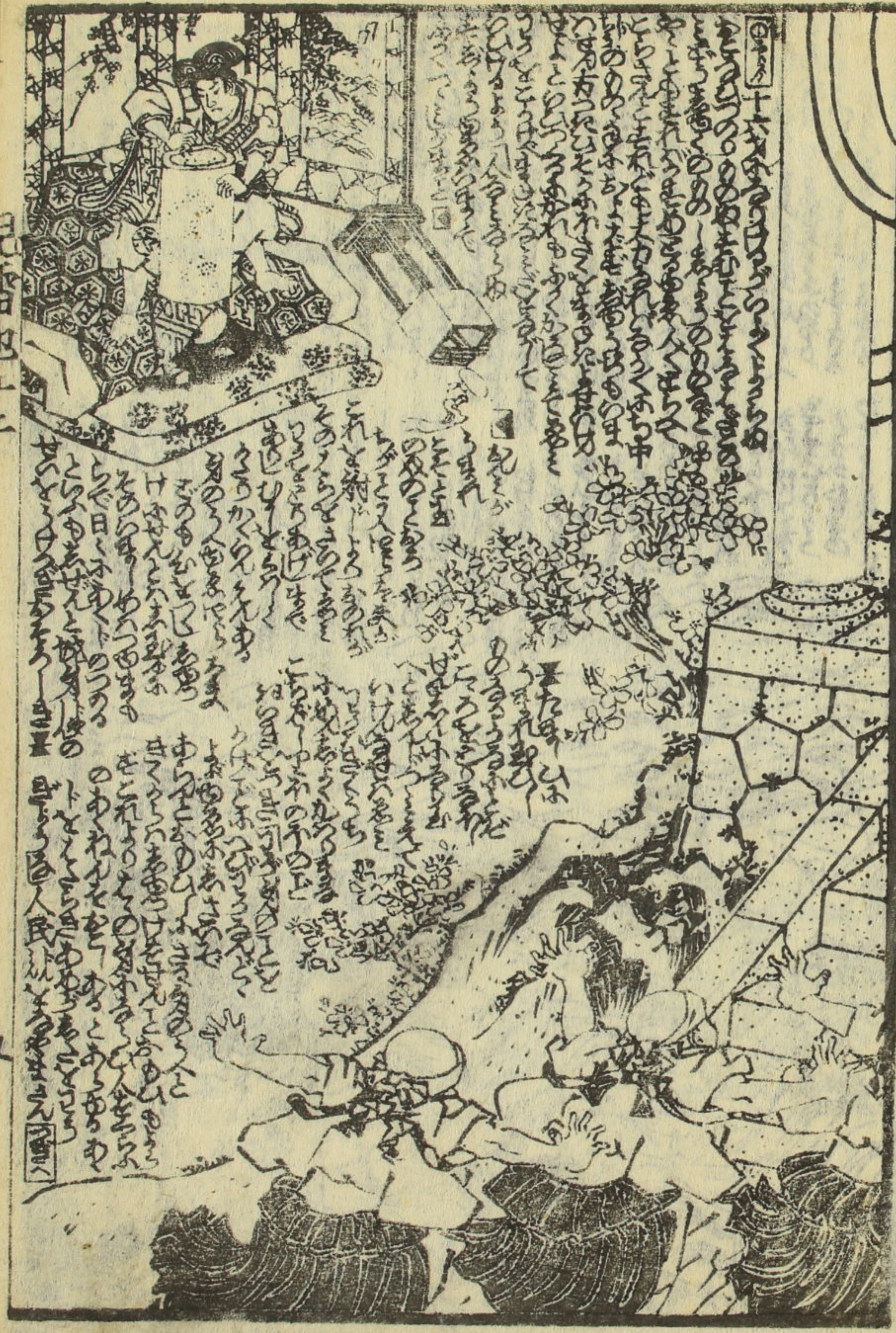


Vertical text on the far left margin of the right page.

Vertical text on the far right margin of the right page.



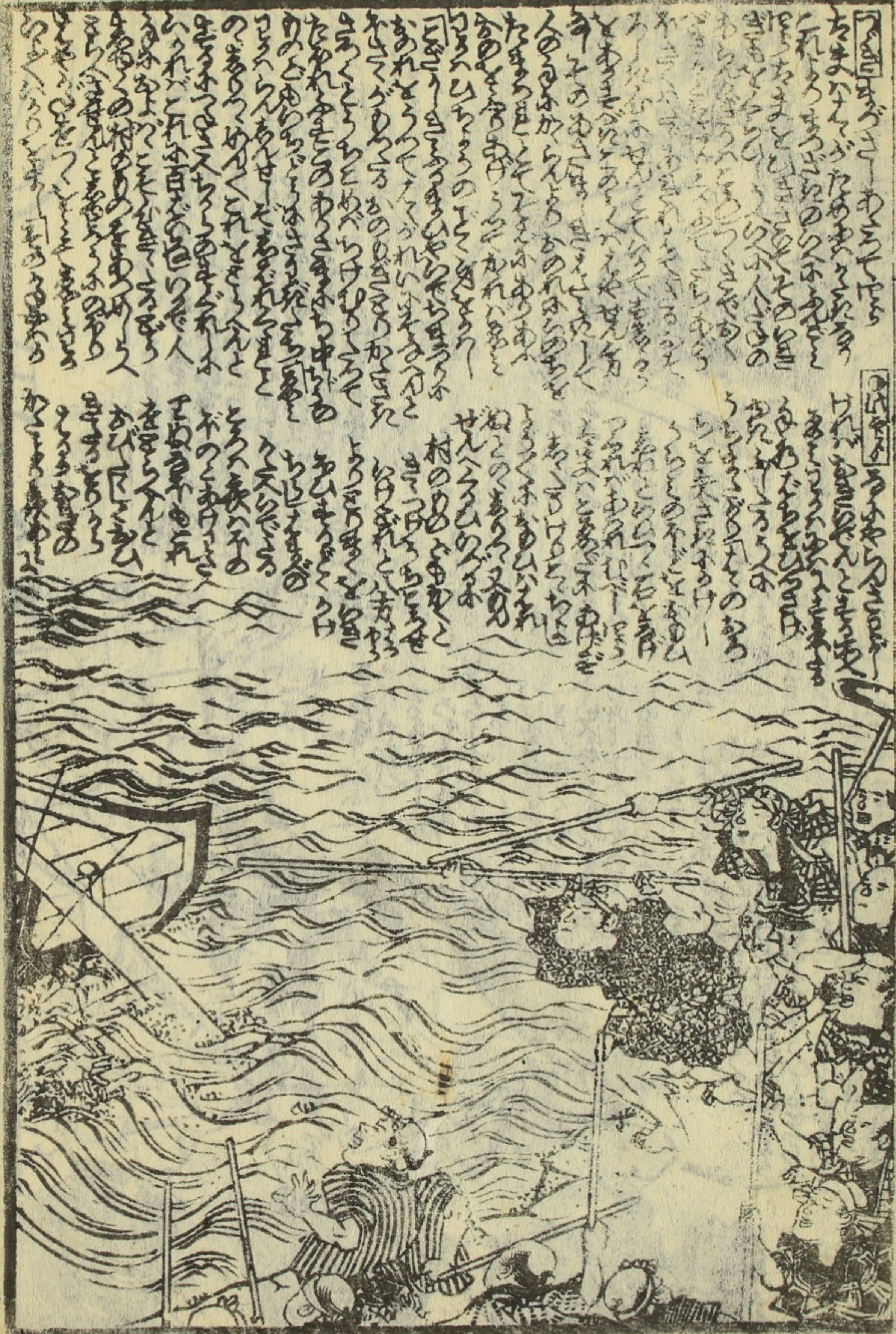
此の如くおぼしめし  
て御座りませう  
と申すに  
おぼしめし  
と申すに



此の如くおぼしめし  
て御座りませう  
と申すに  
おぼしめし  
と申すに

此の如くおぼしめし  
て御座りませう  
と申すに  
おぼしめし  
と申すに

此の如くおぼしめし  
て御座りませう  
と申すに  
おぼしめし  
と申すに



慶應二年寅歲新春刊行

種員作  
豊國画



庚申年十一月

十

女郎花五色石臺  
初編 十編 逆大尾

曲亭馬琴作  
一陽齋豊國画

黄金水大盡五  
十七編 十八編

爲永春水作  
一壽齋國貞画

滑稽道中膝栗毛  
十編 十一編

一返舎一九作  
一筆庵英泉画

風俗漫間  
十四編 十五編

柳下亭種員作  
一壽齋國貞画

いそは文庫  
九編 十編

柳煙亭種員作  
一壽齋國貞画

休草紙  
十六編 十七編

同作同画

芝神明前  
甘泉堂梓

